佐倉市におけるこれからの学校のあり方に係る基本方針説明会

開催概要

日時・会場 ： 令和８年８月23日(日)
①10:00～11:40　中央公民館
②14:00～15:30　志津公民館
参加者合計：18名

内　　容

◆基本方針説明◆

「佐倉市におけるこれからの学校のあり方に係る基本方針」の概要、佐倉市の学校教育の現状と、今後の取組事項などついて説明しました。(当日の資料の内容は、別添「説明会資料」をご参照ください。)





佐倉市の学校教育の現状

・市立学校の概要
・児童生徒数の急速な減少に伴う影響への対応
・教育的配慮が必要な児童生徒数の増加
・学校に期待される役割
・将来を見据えた学校施設の整備の必要性

これからの学校のあり方に係る基本方針

・佐倉市が目指す学校教育のあり方 「 “ひと”と“知”と“社会”と つながる佐倉の学校教育 」
・実現に向けた5つの取り組み
　1 学校再編への取組
　2 学校運営協議会と地域学校協働活動の一体推進
　3 教職員の働き方改革の推進
　4 多様な教育ニーズへの支援体制の充実
　5 小中一貫教育の導入検討
・各取組事項の推進

◆意見交換◆

グループに分かれて、参加されたみなさんが思ったことを自由にふせんに記入し、紹介しながら貼り付ける形式で意見を出し合っていただきました。

意見出し後、各グループで出し合った意見を発表し、全体で共有しました。





＜グループワークでの主なご意見＞

1. 学校再編への取組 について

○ 通学路の安全、通学時間が延びることへの不安がある。
○ 少子化に伴う再編はやむなし。
○ 放課後の過ごし方に影響があるのでは。学童はどうなるか。
○ 親の送迎負担が増すのでは。遅くなるなら中学校でもスクールバスを。
○ 学校再編の優先度が高いが本当にそれで良いか。
○ 早急に具体統合方針を。決定過程を開示してほしい。
○ 統合による学校規模拡大と一人一人の個性を尊重する教育は両立できるか。

2. 学校運営協議会と地域学校協働活動の一体推進 について

○ 学校運営協議会の今後の進め方はどうなるか。
○ 協議会が担う役割への期待は。どの程度まで現場に求めるのか。
○ 地域学校協働活動はどこまで浸透しているのか。
○ 学校と地域の垣根を感じる。学校は地域が入ってくることを嫌っているのでは。
○ 教師と地域とのつながりが不十分。

3. 教職員の働き方改革の推進 について

○ 働き方改革について、保護者や地域との相談・協議が不足している。
○ 部活動の地域移行はうまく進んでいるか。部活動に未来はあるか。
○ 授業以外で負担になっていることは何か。教員不足か用務員不足か。
○ 一部モンスターペアレンツ対応で先生方が疲弊している。対策を行って働きやすいように。
○ 教員のなり手不足について、魅力ある職業として発信があっても良いのでは。
○ 先生の業務でAIを活用して、負担を減らして。

4. 多様な教育ニーズへの支援体制の充実 について

○ 不登校が多い。社会へ出られる意識を小学校から作っていってほしい。
○ こどもの居場所の確保
○ 学校教育の多様化は3つ(特別支援、日本語、不登校)以外にもあると思う。
○ いじめ・不登校の問題は深刻。大人になっても引きずる。
○ 不登校児童生徒に対して、まずは好きなことを好きな場所でさせてあげる事も考えてほしい。
○ 一クラス複数担任でみる。多様な先生、多様な生徒。

5. 小中一貫教育の導入検討 について

○ 小中一貫教育の利点・効果を知りたい。
○ 一貫教育のデメリットもよく知って手段を考えてほしい。
○ 一貫校を実施している所は思っていた成果が上がっているか。
○ 導入について地元との話し合いを入念に。
○ 小中一貫校は良いと思うので、周知し協力を得られるよう進めてほしい。

上記の他、千葉豪雨に関連して災害に強く安心して通える施設を望むお声や、給食について自校式・無償化の取組への期待、市内史跡や平和資料を用いた教育の推進、ソーシャルワーカー等教職員以外のスタッフ配置増の必要性に言及したご意見等、こどもたちを中心に据えたこどもたちのための学校教育をどのように実現していくかについて、活発な意見交換が行われました。

また、質疑応答では、特に、今後の学校再編について保護者や学校関係者への説明を含め、より迅速かつ丁寧な対応が必要である旨ご意見がありました。

アンケート

説明会に参加された感想として、「学校教育の現状や今後を考える機会になった」「教育委員会の考え方がある程度理解できた」などの回答をいただいたほか、「今後の計画の進め方が不明瞭」「より詳細な説明を求める」といった、より具体的な計画内容の提示を求めるお声も寄せられました。

＜アンケートで寄せられた主なご意見＞

- 公立学校の価値は、多様な家庭環境の子どもが共に学び、地域とのつながりを作れる点にある。
- 中１の壁は、学習面のみでなく、小学校６年間で築き上げてきたリーダーシップや責任感などが、中学生になり急に一番下の立場として扱われることへのギャップもあると感じる。新しい環境に適応するサポートだけでなく、積み上げてきた活動や自尊心の継続する環境づくりも重要。
- ６年生が１年生の面倒をみるという活動があると思うが、例えば小学６年生と中学２年生といった、学年をひとつ飛ばした関わりがあると、中学進学時の安心感にもつながる。いざという時（災害時など）にも他学年を気にかけられる関係づくりになるのでは。
- 「小規模でも通いやすい距離が良い」という人と「遠くて送迎が必要でもクラス替えのできる方が良い」という人、両方のニーズがあると思う。弥富小・和田小のような特認校制度は既にあるが、こうした選択肢や仕組みをもう少し柔軟に広げてもらいたい。
- 将来の人口推計を見て地区再編・統合も視野に入れる必要がある。学校同士つながりを ICT や合同授業・運動会等を活用し、段階を踏んで進めてほしい。それにより、統廃合に対し寛容に対応できると思う。
- 担任や校長など、関わる人が変わったタイミングで不登校支援が途切れてしまうという話も身近で聞く。先生個人に頼らない、学年でも途切れない仕組みづくりをお願いしたい。
- 人材不足だからこそ、ICT の効率的な利用を検討してほしい。子ども向けよりむしろ、先生が行う評価業務や、親がこどもの学習理解度を把握できる仕組みにこそ活用してほしい。家庭においては習熟度が見えにくく、それがゆくゆく学習格差につながっている気がする。
- 水泳授業の民間委託は、費用・安全面で成果が出ている事例。この仕組みを活かし、授業に加えて希望者はそのまま同じ施設の習い事コースに通える、部活動の地域移行のような流れを他の活動でも作ってもらえたら嬉しい。
- 地域の協力を得ながら教師の先生方の働き方改革が出来るのではないかと考える。
- スクールガードの担い手が高齢化で危機的となっている。単なるボランティアでは人が集まらない時代なので、有償ボランティアとして募るとか、何か特典を考えられると良いのでは。
- 参加者からの意見・質問を聞いて、最大のテーマは学校の再編だと感じた。将来を考えると再編は不可避だと思う。学校、特に小学校は居住地を選び、生活基盤を築く大きな要素なので、早めに方向性を出すことが必要と思う。
- 公教育機関の編成は不可避であるが、一般に生活している市民にとってはその重要度は低く感じるのはやむを得ないと思う。学校が遠くなるのは困ること。しかし、小学校6年間、あるいは9年間逃れられない小さな人間関係にいなければならないことの苦痛は、体験しなければ想像できない。私は少なくとも2学級以上の小学校を目指す方針に賛成する。そこに教職員を今以上に増やす施策を検討して欲しい。
- 早く具体案を市民に提示して、メリット、デメリットの説明をし、新しい保護者に選択肢を与えてほしい。具体化されなければ一般市民は考えようがないので、批判を恐れず提言を望む。